

日本近海産 *Porphyra* 属の種の検索表

時 田 郁*

J. TOKIDA: Key to the Species of *Porphyra* in Japan and Vicinity.

日本近海産アマノリ属の種類については、まだ残された問題が多く研究者たちによって検討が進められている現状であるが、学生に講義する場合に一応現在の段階で話をする必要上次のような検索表を作っているのここに紹介する。別に事新しい点は無いが、亜属の和名を永年このように使ってきているが一度公表しておいた方が好都合であるとのすすめもあるので、紙面をお借りすることとした。

- I. 体は1層の細胞から成り、各細胞には中心に1個の星形色素体がある。…
………… Subgenus PORPHYRA. ヒトエアマノリ亜属
 1. 体の縁辺に顕微鏡的刺状突起がある
 - a. 雌雄同株
♀ 16 (a/2 b/2 c/4) ♂ 128 (a/4 b/4 c/8)¹⁾
P. okamurai UEDA (1932) クロノリ
♀ 32 (a/2 b/4 c/4) ♂ 64 (a/4 b/4 c/4)
P. suborbiculata KJELLMAN (1897) マルバアマノリ
♀ 32 ♂ 128 *P. crispata* KJELLMAN (1897) ツクシアマノリ
 - b. 雌雄異株
♀ 16 ♂ 128 *P. dentata* KJELLMAN (1897) オニアマノリ
 2. 体の縁辺に顕微鏡的刺状突起がない
 - a. 雌雄同株
♀ 4 (a/2 b/2 c/1) or 8 (a/2 b/2 c/2) ♂ 32 or 64

* 北海道大学水産学部

The Bulletin of Japanese Society of Phycology Vol. XIV. No. 3, December 1966

1) 造果器細胞は16個の果胞子を、造精子は128個の精子を形成し、それらの分裂形式はカッコ内の通り、という意味。a, bは細胞表面観の縦横の辺、cは断面で見た細胞の高さ。この分裂形式はおもなものを示し、他は省略した。

P. kuniedai KUROGI (1957) マルバアサクサノリ

♀ 8 or 16 ♂ 64 (a/2 b/4 c/8)

P. kinositai (YAMADA et TANAKA)

FUKUHARA (1965) ウタスツノリ

♀ 16 ♂ 64 *P. seriata* KJELLMAN (1897) イチマツノリ

♀ 16 ♂ 128 *P. tenuipedalis* MIURA (1961) カイガラアマノリ

♀ 32 ♂ 128 *P. ochotensis* NAGAI (1941) アナアマノリ

♀ 16 ♂ 64 *P. sp.* (FUKUHARA 1965) ソメワケアマノリ

b. 雌雄同株又は雌性異株²⁾

♀ 8 ♂ 64 *P. tenera* KJELLMAN (1897) アサクサノリ

♀ 8 ♂ 128 *P. moriensis* OHMI (1954) カヤベノリ

♀ 16 ♂ 128 *P. yezoensis* UEDA (1932) スサビノリ

♀ 8 ♂ 32 *P. palleola* NODA (1964) サツキノリ

c. 雌雄異株

♀ 8 ♂ 128 *P. angusta* OKAMURA et UEDA (UEDA 1932)

コスジノリ

♀ 32 ♂ 128³⁾ *P. pseudolinearis* UEDA (1932) ウツプスイノリ

d. 雌雄異株又は雌性異株⁴⁾

♀ 16 or 32 ♂ 128 *P. crassa* UEDA (1932) アツバアマノリ

e. 雌雄異株又は同株。体には時に 2 層の細胞から成る部分がある

♀ 32 ♂ 128 or 256 (a/4 b/4 c/16)

P. umbilicalis (L.) J. AGARDH (1883)⁵⁾

チシマクロノリ

II. 体は 1 層又は 2 層の細胞から成り，1 層部の各細胞には 2 個，稀に 1 個，の星形色素体がある。体は全縁。………

… Subgenus DIPLASTIDIA TOKIDA (1935), emend. MIKAMI (1956)

フタツボシアマノリ亜属

1. 体は 1 層

2) androdioecious. 雄性体は造精器のみ，雌性体は造果器のほか少数の造精器を作る。

3) 殖田ほか (1963), p. 552 による。

4) gynodioecious. 雌性体は造果器のみ，雄性体は造精器と少数の造果器を作る。

5) 本種は *Porphyra* 属の type species.

a. 雌雄異株又は稀れに同株

♀ 16 ♂ 128 *P. pseudocrassa* YAMADA et MIKAMI
(MIKAMI, 1956) マクレアマノリ

2. 体は1層又は2層

a. 雌雄同株

♀ 8 ♂ 64 *P. onoi* UEDA (1932) オオノノリ

b. 雌雄異株

♀ 64 ♂ 128 *P. punctata* YAMADA et MIKAMI
(MIKAMI, 1956) スナゴアマノリ

III. 体は2層の細胞から成り、各細胞には中心をはずれて、又は中心に1個の星形色素体がある。体は全縁。……………

… Subgenus DIPLADERMA (KJELLMAN 1883) ROSENVIINGE (1893)

フタエアマノリ亜属

a. 雌雄同株

♀ 4 ♂ 128 *P. tasa* (YENDO) UEDA (1932) タサノリ

♀ 16 ♂ 64 *P. bulbopes* (YENDO) OKAMURA (1916) フクロタサ

♀ 16 ♂ 64 *P. variegata* (KJELLMAN) HUS (1900, 1902)

ファイリタサ

b. 雌雄異株又は同株

♀ 8 ♂ 16 or 64 *P. amplissima* (KJELLMAN) SETCHELL et HUS
(HUS, 1900, 1902) ベニタサ, キイロタサ (本種は
田中 (1952) によると *P. occidentalis* SETCHELL
et HUS (in HUS, 1900, 1902; KAWABATA 1936;
NAGAI 1941) を含む。川端 (1936) は雄性体のみ
が知られるとしてキイロタサと命名した。)

文 献

(おもなものだけを年号順にあげる)

- Rosenvinge, L. K. 1893: Grönlands Havalger. Meddelelser om Grönland. 3, 765-981, Pls. 1-2. Kjellman, F. R. 1883: The Algae of the Arctic Sea. Kongl. Sv. Vet-Akad. Handl., 20, No. 5. ———— 1897: Japanska Arter af Slägtet Porphyra. Ibid. 23 No. 4. Hus, H. T. A. 1902: An account of the species of Porphyra

found on the Pacific Coast of North America. Proc. Calif. Ac. Sci. Ser. 3. Bot. 2 (6), 173-240, Pls. 20-22. 植田三郎 1932: 日本産あまのり属の分類学的研究. 水溝研報 28 (1), 1-45, Pls. 1-24. 時田 郁 1935: Phycological Observations II. On the structure of *Prophyra onoi* Ueda. 札幌博物学会報 14 (2), 111-114, Pl. 2. 田中 剛 1952: The systematic study of the Japanese Protofloridae. 鹿大水学紀要 2 (2), 1-92, Pls. 1-23. 三上日出夫 1956: Two new species of *Porphyra* and their subgeneric relationship. Bot. Mag. Tokyo 69 (819), 340-345. 植田三郎・岩本康三・三浦昭雄 1963: 水産植物学. 水産学全集 10, 640 頁, 東京. 野田光藏 1964: On the *Porphyra* from Sado Island in the Japan Sea. Sci. Rep. Niigata Univ. Ser. D (Biol.), No. 1, 1-13.

藍藻類の分類について

梅 崎 勇*

I. UMEZAKI: On the Classification of the Blue-green Algae (Cyanophyta)

1930-'32 年発表の GEITLER のシステム (Cyanophyceae: In L. RABENHORST, Kryptogamen-Flora, Bd. 14) が、当時の多くの藻類学者によって採用され、また藍藻類分類の基準ともなっていた。その後、藍藻類の多くの新しいシステム、新種属が発表され、また種属間の変動と、それらの類縁関係についての多くの報告がなされた。ところが、藍藻類には、現在のところ、他の藻類のような確立されたシステムがなく、またそのシステムについても学者間に一致がみられない。これは恐らく藍藻類の種属を区別出来る明確なる特徴の少ないことと、種属間の中間型が少ないためと考えられている (PAPENFUSS 1955)。かように、現在のところ、藍藻類には確立されたシステムがないが、ここでは、主として GEITLER (1930-'32) 以後に発表された主なシステムと、連鎖体目における主な種属間の分類について概説したいと思う。しかし、小球体目の種属間の分類については、後の機会にゆずりたいと

* 京都大学農学部水産学科

The Bulletin of Japanes Society of Phycology Vol. XIV. No. 3. December 1966